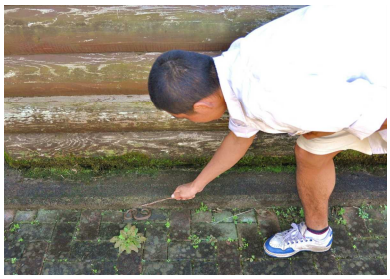
佐高ミュージアム No.１００　　２０１０年１１月２２日発行

ヒバカリ

「咬まれたらその日ばかりの命」



「先生、**マムシ**を見つけちゃいました！」 11月19日。マラソン・ウォーキング大会の折り返し点（梅林公園）付近で３年２組のＳ田君とＫ村君がトイレの脇に案内してくれた。トイレの前には、確かに『まむしに注意！』という看板がある。「こん中にいるんです」と木の枝でほじくり出して見せてくれた。

出てきたヘビはそうとう怒ったらしく、首をもたげて**激しい威嚇**行動を始めた（上の写真）。いまにも飛びかからんばかりの体勢であるが、Ｓ田君は手でつかもうとしている。マムシだとしたらかなり危険な状況である。しかし、ヘビの体にはマムシ独特の鎖模様が全くなく、かなり細身の体型である。どうやら、マムシではなさそうだ。

このヘビ、和名を「**ヒバカリ**」という。「咬まれたらその日ばかりの命」という意味で、名前からすると猛毒のヘビという感じだが、実は**無毒**なのである。普段はおとなしいが、しつこく追い立てられ、我慢の限界を超えると、首をＳ字に曲げて激しく威嚇する習性があるのだ。おそらく、ここから毒ヘビであるという誤解が生じ、名前にまでなってしまったのだろう。実際は無毒であり、咬みつこうともしない。小型のカエルやオタマジャクシ、ミミズなどを食べている。

一般的には知名度はあまり高くないが、近年**最も遭遇頻度が高い**ヘビになっているらしい。しかし、Ｓ田君たちに遭遇したヒバカリにとって、この日ばかりは、さぞかし迷惑な一日だったことだろう。